

中学生の学力低下

基礎学力の低下を実感している教師が抱える新たな問題は……

昨年『点数ができない大学生』という本が出版され、大きな話題を呼んだ。しかし、学力低下は何も大学生だけに起きている現象ではない。高校で、そして中学校でも、生徒の計算力や国語力の低下を危惧する声が上がっている。

生徒を指名したが、その生徒も答えられない。次々と生徒を当てていき、5人目でようやく正答が出た。休み時間、M教諭は数学の教師に相談に行つた。「一体どうなっているんですかね。きちんと取り組む気がないのかしら」

「分かりません」と返答した生徒も、分数なら即座に答えられたかも知れない。小数を分数に置き換えて考えることができず、小数が出てきた途端に凍りついたように思考をやめてしまった生徒。M教諭が生徒とのやり取りの中で、最近、最もショックだった出来事だ。

生活体験や反復学習の時間が不足

M教諭はここ数年、生徒の学力が坂道を転がるように落ちていっていると感じている。例えば、カタカナを満足に書けない生徒の増加。「マトア」「ソとン」「シとツ」を区別して書けない生徒が、クラスに5、6人はいると言つた。また数年前、「地球の自転」を教えているときにも、こんなことがあった。「太陽がどの方向から昇るかは知っているよね？」M教諭は生徒に問い掛けた。もちろん基礎的な

東京都の公立中学校の2年生の理科の授業でのこと。「電流」についての単元で、 0.02×1000 という簡単な小数の計算問題が出てきた。

「こんなのすぐ解けちゃうよね」
そう言つてM教諭は、ある1人の生徒に解答を求めた。理科の成績はクラスでも上の下くらい。この程度の問題なら苦もなく答えられるはずだ。ところが生徒は小首を傾けたまま、「こう言った。」「分かりません」

「あれ？」とM教諭は思った。やむを得ず次の

確認という意味での質問だ。ところが、生徒たちはにわかにざわつき、「北だ」「南だよ」「いや東だ」と言い合い始めたのだ。M教諭は遂方に暮れた。中学生なら身に付いているはずの一般常識が、今の子どもには欠けている。M教諭はそう感じた。

なぜこうなったのだろうか。すぐに思い浮かぶ原因に、生活体験の不足が挙げられる。「草木や花の名前を知らない子どもが増えている」とM教諭は言う。かつては生活の中で自然と覚えていったことが、今の子どもには当たり前ではなくなっている。

計算力や国語力の低下については、小・中学校で反復学習をする時間を大幅に減らしていることが、大きな原因ではないかとM教諭は分析する。

「私たちが小学生の頃は、嫌というほどドリル学習をやらされました。でも今、小学校では児童が自ら興味を持って学ぶことが大事で、ドリル学

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)
復習や導入	多くなっている 減っている	11.7 45.7	11.8 34.3	13.9 39.0	6.3 41.7
練習や演習	多くなっている 減っている	18.8 47.2	7.7 42.6	13.9 48.7	6.8 51.0
内容を膨らませた説明	多くなっている 減っている	11.2 48.7	19.5 43.2	15.5 48.1	12.0 48.4
問題集や副教材	多くなっている 減っている	6.1 48.7	8.3 43.2	4.8 49.2	4.7 43.8
宿題の量	多くなっている 減っている	12.2 38.6	6.5 42.0	10.2 28.3	6.8 34.9
余談をする時間	多くなっている 減っている	3.6 64.5	4.7 59.8	3.7 60.4	1.0 59.4

教科書を教えること以外の時間がなく、演習や宿題も減っていると感じている割合が高い。学習量が全体的に減っていることがわかる。 数値は% ()内はサンプル数
*「第1回 学習指導基本調査報告書」中学校版(ベネッセ教育研究所発行より)

習に時間を費やすのは教育の本道ではない、という考え方が強いんです。児童に宿題を出す学校もかなり減っています。この傾向は中学校でも同じ。そのため、かつてなら反復学習で修得していたような基礎的な事項をきちんと身に付けられないままに、生徒は次の単元に進むことになるのです」

だらと文字を書き連ねた文章が数編あると言つた。また、H教諭は生徒の学力低下と同時に、学習意欲の低下も進んでいると言つた。イスに座り教師の話をしつくり聞くことができず、説明したばかりのことをオウム返しのように質問する等々。まず生徒に学習への姿勢を身に付けさせなくては、学力低下に歯止めがかからないとH教諭は嘆く。

もちろんM教諭も「自ら興味を持って学ぶことは大事だと思つている。だが、その土台となる計算力や国語力がない限り、生徒は少し難しい計算式や文章に出合つて思考を止めてしまふ。自らの興味を、さらに深い知識を得ようとする行動へと結び付けることができない」

「しかし難しいのは、何が基礎基本なのかということなんです。太陽が東から昇るのを知らない生徒のことを嘆いていたら、数人の先生から『そんなことは知らなくても生きていける』と言われました。そのとき、私の中にある『これだけは教えなければ』と思つて気持ちがぐらつきました」(M教諭)

学習意欲の低下も深刻

東京都の公立中学校で英語を教えるH教諭も、生徒の学力が落ち込んでいると感じている一人だ。H教諭は自分が担任しているクラスの生徒によく作文を書かせるが、句読点が打たれておらず、だら

だらと文字を書き連ねた文章が数編あると言つた。また、H教諭は生徒の学力低下と同時に、学習意欲の低下も進んでいると言つた。イスに座り教師の話をしつくり聞くことができず、説明したばかりのことをオウム返しのように質問する等々。まず生徒に学習への姿勢を身に付けさせなくては、学力低下に歯止めがかからないとH教諭は嘆く。